

第37回評価委員会における委員意見及び対応（案）

No.	資料 (親委資料 での頁)	委員意見	対応（案）
1	参考1	【小松】 3章目次の並べ方で、インプット⇒原因⇒結果と並べた方がよいため、5番の潮流・潮汐を3に入れてはどうか。	目次（イメージ）はこれで固めたものではない。 ご意見を踏まえ、読み手に分かりやすい構成を検討する。
2	3-2 (P26)	【古賀】 A2海域では、水産庁の現地実証では覆砂が実施されているが、各県の事業ベースではあまり実施されていない。粒径加積曲線のみから多くの点を評価対象外にするのは違和感がある。各県に正確な覆砂エリアを確認し、検討する必要がある。	ご意見を踏まえ、覆砂エリアを精査する。
3	3 全般	【中田（薫）】 資料に載っているのは着底してしまった貝である。浮遊幼生は他の海域にソース（母貝）があり、それが変化しなければ浮遊幼生数も変化しない可能性がある。母貝がどこにあって、どのように運ばれたというような変化のまとめが必要。海域毎に記載するとこのようになってしまう。	海域ごとの記載か、全体での記載か、検討したい。適宜ご意見をいただきたい。
4	3-6	【速水】 報告書で1970年代からの変化を扱うということであれば、A6海域はかつてタイラギの漁獲があり、それがなくなったことを取り上げるべき。	第31回の評価委員会で二枚貝の取りまとめの方向性という資料において、諫早湾では1993年以降漁業が行われていなくて今回の評価対象から除外したという記載があり、今回の資料はそれを踏まえて記載していない。これで確定ではないので、ご意見をいただきたい。

No.	資料 (親委資料 での頁)	委員意見	対応 (案)
5	3-6	【速水】 底質のデータは諫早湾口の1点のみであり、貧酸素に関するデータも示されていない。諫早湾内は農政局による調査が行われており、調査点数も多い。期間も2005年以前からある。今後取り上げていくべき。	検討してまいりたい。
6	3-6 (P5)	【上田、岡田委員長】 ベントスについて、同じ個体数に変化がなくても種構成が異なれば環境が違ふと思われるため、そのあたりを考察されたい。	種組成の変遷については、海域ごとに考察を入れている(資料3-6であればP.7)。これについてもご意見をいただきたい。
7	3 全般、 3-8 (P6)	【西村】 問題点とその原因・要因を考察していくには、まずその問題点が何かということが明示される必要がある。 例えば、ノリの色落ちについて、2000年は生産量が非常に落ち込んでおり、問題点だと思うが、その後をどう見るか。例えば2000年以降とそれ以前で分けて問題点として捉えて、その原因・要因を考察するのはどうか。 平面的な区分はこれでよいと思うが、今度は時間的な観点で問題点をどう捉えるのかを少し整理されたい。	ご意見も参考に、どのように整理すれば分かりやすい報告書となるのか、検討する。
8	3-4 (P3)	【内藤】 アサリの減少要因に底質中のマンガンの影響が挙げられている。マンガンの影響がA4でのみ測定されているのか、それとも他海域でも測定されているがA4海域の要因の特徴として挙げられているのか。	今後、マンガン関係についての記載を検討する

No.	資料 (親委資料 での頁)	委員意見	対応 (案)
9	3 全般	【中村】 底質の変化について、深さ方向の記録として過去の状態がある程度保存されているものとして、コアサンプルの底質データを活用すれば、過去を類推するいい材料になると考える。	これまでに有明海において実施された底質コア抜き調査結果の内容を確認した。堆積・浸食を繰り返す海域における調査結果が、有明海再生に向けた評価にどのように活用できるか、検討してまいりたい。
10	3 全体	【山田】 連関図を見れば、海域毎の特徴が詳しくわかるのではないかと考えるが、海域毎にどのように異なるのか説明されたい。特徴ある要因は線を太くするなど工夫すれば見やすくなる。	現段階では図としてはほぼ同じ。可能性がある要因は残している。本文の方で海域ごとのポイントに重点を置いて整理する。 線を太くする等の工夫は、定量的に困難であると考えため、まずは本文の方の議論を優先的に進めたい。
11	3 全体	【古賀】 第 35 回評価委員会で、海域相互間の S S 流入・流出等をシミュレーションすることが示されていたが、その結果が示されるとの理解でよいか。	水、懸濁物、栄養塩の流れについてシミュレーションモデルを活用すると示していた。次回以降、それらの内容を示し、議論いただきたいと考えている。
12	(スケ ジュール)	【山本】 最終的には対策の提案に結びつくものを出すことが目的だと認識している。5 章に記載する再生方策に関する議論は、いつ、どのような形で始めることになるのか。スケジュールを示されたい。	今年度の 2 月に小委員会を、3 月に評価委員会を開催する予定。来年度に入っても、小委員会、評価委員会を重ねて開催する必要があると考えている。 現段階で、タイミングを申し上げられないが、5 章関係についてもなるべく早く資料を示し、議論を開始したい。